【漁業関係者　意見交換会】

宿毛市市街地における海岸堤防の地震津波対策意見交換会　議事メモ

日　時：平成28年8月18日（木）13：30～14：30

場　所：すくも湾漁協　第2会議室

出席者：漁業関係者　10名

○県宿毛事務所より説明（別添資料）

宿毛市市街地における海岸堤防の地震津波対策

○質疑応答

１．海岸堤防の高さについて

県：国・県の整備として本来ならL1津波まで対応する整備をするべきであり、県としてできるだけL1（津波）の高さまでは整備したいと考えています。

しかし、L1（津波）まで整備するとなると、既設堤防の高さを4.5m程度嵩上げすることなり、また相応の厚みを増すため、特に片島・大島地区の生活、生業等を考えると現実的でありません。高さについては、地域住民の方に決めていただくとしていますが、県としては、せめて長期浸水は防ぎたい考えから、長期浸水対策を主に説明させていただくようにしています。

漁：高さ（堤防高）については、分かりました。問題ありません。これで良いです。

漁：新田（新田海岸）のOZAKIタイヤ付近は大きな津波が来ると思いますが、どのくらい上げますか（嵩上）。また、地中の基礎（地盤）が崩れるとも思いますが、どんな形（形状）で工事しますか。

県：今は基本設計の段階ですが、このあたりは既設堤防が高いことから、嵩上は60cm程度となります。

また、地震の液状化や・津波の波圧に耐えられるよう海側に増厚（腹付け）し、厚さが2.0m～2.5m程度になります。本年度に詳細設計を行うこととしており、その結果によっては、杭基礎構造や鋼矢板を地中に打込む構造になる場合があります。

２．陸こうについて

県：陸こうについては、津波の襲来時に閉めに行くことはできないので、県としては基本全てコンクリートで閉塞したいと考えています。

但し、特に片島地区・大島地区の生活や生業を考えるとそれもできないため、主に個人が利用している小さい（小規模な）陸こうはまとめて大きな陸こうで1つに統合するなど必要最小限とする考えでいきたいと思います。

そこで本日は具体的に「最低限ここには必要」という箇所をお聴きしたいと考えています。

漁：片島の大島漁港（3k000付近）の前は作業に支障を来すため、必ず陸こうが必要です（出荷用の陸こう（陸こうNo.19）と業者が出入りするための陸こう（陸こうNo.16））。

県：大きなゲートを一つ設置することを想定しています。現況は小さな陸こうが複数あるため、今後のメンテナンスのことを考えると、一つに統合したいです。県としては、極力陸こうは少なくしたいと考えています。

他の関係機関ヒアリングの結果を踏まえ内部で整理し、改めて説明します。

３．その他

漁：T.P.+1.08とはどういう値ですか。朔望平均満潮位であれば、大潮の時に天端高より潮位が高くなるのではないですか。

県：高知県宿毛市の朔望平均満潮位です。大潮の際に天端高より潮位が高くなることを想定し、50㎝程度の余裕高を設けています。

漁：今後の整備スケジュールはどうなりますか。

県：計画平面図の赤線（大深浦東側、高洲･新田、松田川）の範囲は5年以内、青線（大深浦西側、片島、大島）の範囲は10年後から対策を行うことを予定しています。ただし、あくまで予定であり約束はできません。

漁：2.4mの沈下はどの程度の範囲を想定していますか。

県：宿毛市全体であり、2.4mは想定される最大沈下量です。